

Clinical features and outcomes of 139 Japanese patients with Hodgkin lymphoma

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蒔田, 真一 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001905

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1762 号

Clinical features and outcomes of Japanese patients with Hodgkin lymphoma in the last decade

(標準的初回治療を受けたホジキンリンパ腫患者 144 人の臨床的検討)

蒔田 真一 (まきた しんいち)

博士 (医学)

論文内容の要旨

標準的初回治療を受けたホジキンリンパ腫 (Hodgkin lymphoma: HL) の治療成績に関する日本からの報告は少ない。特に、2000 年代の日本における HL の治療成績に関する報告は限られている。最近 10 年の日本における HL 患者の現状を明らかにするため、国立がん研究センター中央病院で初回治療を受けた HL 患者を対象として後方視的研究を計画した。1997 年 9 月から 2011 年 12 月までに当院で診断され初回治療を受けた HL 患者 144 人を対象として、臨床像、治療内容、予後について後方視的に検討した。I-IIIA 期を限局期とし、IIB 期以上を進行期とした。対象患者の年齢中央値 34 歳 (範囲: 14-83 歳)、男性 85 人 (59%)、限局期 83 人 (57%)、進行期 61 人 (43%) であり、病理組織型は結節硬化型 79 人 (55%)、混合細胞型 31 人 (21%)、リンパ球減少型 5 人 (3%)、リンパ球優位型 3 人 (2%)、結節性リンパ球優位型 12 人 (8%) であった。初回治療として、限局期では 73 人 (88%) の患者で ABVd 療法 (中央値 6 コース) に放射線療法が併用された。進行期では全員に化学療法 (ABVd 療法が 78%、中央値 8 コース) が行われ、主に IIB 期または bulky 病変を有する患者で放射線治療が追加された。観察期間中央値 69 ヶ月 (範囲: 6 - 176 ヶ月) で、全患者、限局期および進行期の 5 年無増悪生存割合 (PFS)/全生存割合 (OS) はそれぞれ、82%/92%、92%/94% および 68%/89% であった。進行期患者の PFS は限局期に比して有意に不良 ($p=0.003$) であったが、OS では有意差を認めなかった。以上より、標準的初回治療を受けた HL 患者の治療成績は過去の報告と遜色がなかったが、進行期患者の PFS は限局期に比し不良であり、更なる治療研究の必要性が示唆された。